

予算特別委員会
常任委員会報告
代表質問・一般質問
政務活動費



らしさ、かがやく。



坂井市の最新情報を日々発信中！

こちらの二次元コードから
「福井県坂井市」を友達に追加 ▶



令和
8年度

一般会計補正予算概要

補正額 **4億4,570万円**（補正後の額 497億7,247万円）

令和8年度一般会計補正予算（第2号、第3号）を議決しました。
ここには主な事業を掲載しています。

詳細はこちら▶

一般廃棄物収集処理事業 **860万円**

アルミ缶の回収およびリサイクルを促進するにあたり、回収機を坂井市役所本庁に設置するための所要額です。

体育施設維持管理事業 **430万円**

三国運動公園人工芝グラウンド利用者の利便性向上を図るため、トイレおよび更衣室の新築に係る設計業務の所要額です。

予算特別委員会

～6月15日、7月3日開催～

本委員会では、令和8年度補正予算を審査しました。ここでは委員会で出ました質問・答弁を抜粋しています。



環境共生事務事業

問 家庭用生ごみ処理機などの購入費用の一部を補助する事業について、どのような効果があると考えているか。

答 家庭から排出される生ごみについて、可燃ごみの中で食品廃棄物が約3割を占めている。生ごみ処理機を各家庭で利用することで、焼却ごみの削減と資源循環の促進につながると考えている。また、具体的な数字として、家庭用生ごみ処理機の導入が進んだ場合、4人家族での利用を想定すると年間で14トン程度の生ごみの削減効果が見込まれる。

観光ビジョン戦略事業

問 小松空港から東尋坊・三国駅方面へのアクセス改善の可能性を検討するにあたり、実証バスを運行するとあるが、運行ルートやターゲットはどのように考えているのか。

答 小松空港から東尋坊への直通のバスを運行し、アクセス向上による観光客の増加を狙いたい。

主なターゲットとしてインバウンド客を考えており、特に小松空港の利用が多い台湾便の到着に合わせた時間での運行をすることで坂井市への導線とする。

また、羽田や福岡から小松空港へ来た観光客にも利用してもらい、国内外問わず多くの利用をしてもらえるよう広報をしていく。

小学校・中学校教育振興事業

問 小中学生について、修学旅行費の保護者負担の一部を補助する取り組みだが、今回限りの支援なのか、来年度以降も継続を見込んでいるのか。また、財源は今後も寄附市民参画基金を利用するのか。

答 保護者負担の軽減を図るということの一つの目的としているため、一過性の事業ではなく、今後も継続していきたい。

財源については今後の継続性や財政状況などを総合的に判断しながら検討していく。



坂井市議会の構成

Check

特別委員会

特定のテーマを審査または調査研究するため、必要に応じて設置される委員会です。

防災減災対策調査特別委員会

「誰ひとり取り残さない、安全・安心の坂井市」の実現のために、強靱な社会基盤の整備、地域防災体制の充実、避難所環境の改善および生活基盤の強化など、災害に強いまちづくりの推進に向けて、総合的な防災・減災対策および生活環境の向上に資する施策について調査研究します。

委員長 山田 秀樹 副委員長 高嶋 信博

委員 西岡 文武、佐藤 昌康、廣瀬 陽子、岡部 恭典、三宅小百合、上坂 健司
松本 朗、辻 人志、川畑 孝治、永井 純一

地域公共交通対策特別委員会

人口減少および少子高齢化が進行する中、地域公共交通の役割はますます重要であるため、市民目線による現状把握、費用対効果の見える化、周辺市町との広域交通圏連携も視野に入れ、地域公共交通のさらなる利便性向上、維持、継続および発展について調査研究します。

委員長 鍋嶋 邦広 副委員長 大谷 正道

委員 高倉 友愛、上内 晴幸、林 豊夏、佐藤 岳之、伊藤 宏実、後藤 寿和
古屋 信二、田中 哲治、前田 嘉彦、畑野麻美子

予算特別委員会

予算の審議を行います。

委員長 田中 哲治 副委員長 伊藤 宏実

委員 議長を除く全議員



議会広報編集委員会

『坂井市議会PRマガジンさかい』の編集・発行を行います。

委員長 上坂 健司 副委員長 林 豊夏

委員 西岡 文武、大谷 正道、佐藤 昌康、伊藤 宏実、後藤 寿和



議会報告委員会

市民との意見交換の場である議会報告会や意見交換会に関して協議または調整を行います。

委員長 山田 秀樹 副委員長 永井 純一

委員 上内 晴幸、廣瀬 陽子、三宅小百合、田中 哲治





教育民生常任委員会報告

主な質疑内容

教育委員会

Q 少子化の中で、学校統廃合は避けて通れない。住民の納得を得るためにも、早いうちに長期的なビジョンや方針を示すべきではないか。

A 「子どもたちに最適な教育環境と学びの場を提供する」という教育理念のもと、『未来の教育を考える検討委員会（仮称）』を早急に立ち上げる。5から10年という長いスパンで、保護者・地域住民・関係機関などと幅広く慎重に検討を進めていく。

Q 学校プールの解体後、跡地をどのように活用していくのか。学校や地域ごとの対応だけでなく、教育委員会としての方針はあるのか。

A 高棕小学校と平章小学校では、令和8年度にプールを解体し、その後、駐車場として整備する予定である。小学校は避難所でもあり、特に三国地区では津波発生時に車で避難する人も想定されるため、避難場所としての機能を考慮し、学校や地域と協議しながら、利用価値の高い整備を進めたい。



▲ 聴こえの健診の様子

三国病院

Q 市内唯一の分娩施設として、今後どのような機能強化を図るのか。

A 産婦人科医の体制は強化されたが、24時間の分娩対応には課題があり、特に助産師の確保が難しい。大学病院や県立病院への派遣依頼と、積極的な採用活動を継続する。

Q 2日間の人間ドックの実績が年間1件と少ない理由は。また、企業への周知は行っているのか。

A 医師が外来診療にも従事しており、健診専任医師の確保が難しいほか、病室などの受け入れ環境にも課題がある。これまで企業への積極的な働きかけは行っていなかったが、新体制では企業への周知や働きかけを進めている。

健康福祉部

Q 5歳児健診について、令和8年度後半から実施できる体制は整うのか。

A 関係機関との打ち合わせや検討会を重ね、スタッフ体制や保護者への働きかけについて検討している。予定どおり、令和8年度後半から試行的に健診を開始したい。

Q 集団健診の会場で実施している聴こえの健診で異常が見つかった人に、どのような受診案内や認知症予防の支援を行うのか。

A 検査結果に異常があった人には耳鼻科の受診を勧める。また、「耳から始める認知症予防講座」を案内し、難聴の早期対応と認知症予防につなげていく。



総務生活環境常任委員会報告

主な質疑内容

総務部

Q 令和8年度の本市の防災訓練の予定は。

A 令和8年9月27日に市内全域を対象に坂井市防災訓練を予定している。加えて同日、坂井町木部地区と三国町木部地区合同で、避難所開設マニュアルの検証を兼ねた開設運営訓練を予定している。また、実施時期は未定だが、市職員の災害対策本部運営訓練も実施予定である。

生活環境部

Q 不法投棄の実態と対策は。

A 山間部や海岸沿いなど人目につきにくいところで発生しやすく、通報があったものは令和6年度が9件、令和7年度が4件で減少した。対策として、監視カメラの設置や運用、パトロールを県と合同で年4回実施、警察・土木・漁業関係者などからなる連絡会議を年1回開催している。



▲ 不法投棄されたごみ

総合政策部

Q オープンデータを活用し、民間企業や地域コミュニティと連携した地域の課題解決につなげる取り組みは行われているか。

A 個々の分野ごとに関わりが見られるが、状況の把握に至っていない。オープンデータの充実や利活用の促進、各課の取り組みが効果的に連携する関係づくりの検討を進め、地域の課題解決に資する取り組みを推進したい。

Q 移住支援策について、ターゲットを絞った戦略が必要と考えるが見解は。

A 県の調査では県外進学者のUターン就職率は30%を切っている。将来的に生産年齢人口の減少が予想される中、今後は福井にゆかりのある若年層を重点ターゲットとし、長期インターンシップで県内外の福井県出身の学生を対象に募集を進めていく。

財務部

Q 坂井市公共施設等総合管理計画に基づき、施設の長寿命化や総量削減を進めているが、財政削減効果は計画どおりか。

A 令和2年度の計画策定時、面積ベースで7.4%縮減を見込んでいたが、令和7年度末時点で2.2%縮減にとどまっている。物価高騰や建設費上昇の影響で、当初見込みより財政効果も縮小しており、将来的な財政負担の増加が懸念される。

定例会審議結果

全会一致となった議案と議決結果

議案番号	件名	審議結果	議案番号	件名	審議結果
同意第4号	監査委員の選任について	同意	議案第36号	坂井市火入れに関する条例の一部を改正する条例について	可決
同意第5号	監査委員の選任について	同意	議案第37号	令和8年度坂井市一般会計補正予算（第3号）	可決
同意第6号	公平委員会委員の選任について	同意	議案第38号	東十郷中央公園全天候型多目的施設新築工事請負契約の締結について	可決
議案第34号	坂井市税条例の一部を改正する条例について	可決	陳情第4号	食料・農業・地域政策の推進に向けた要請	採択
議案第35号	坂井市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について	可決	発議第1号	食料・農業・地域政策の推進に関する意見書の提出について	可決

賛否が分かれた議案一覧

○…賛成 ×…反対 □…棄権 △…欠席 -…原則採決に参加できない

議案番号	件名	議席 議員氏名 審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
			高倉友愛	西岡文武	大谷正道	上内晴幸	佐藤昌康	高嶋信博	林豊夏	佐藤岳之	廣瀬陽子	鍋嶋邦広	伊藤宏美	岡部恭典	山田秀樹	三宅小百合	後藤寿和	上坂健司	古屋信二	田中哲治	松本朗	辻人志	川畑孝彦	永井純一	畑野麻美子	
議案第33号	令和8年度坂井市一般会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	—	○	×
請願第1号	殺傷能力のある武器（防衛装備品）の輸出撤回を求める意見書の提出に関する請願書	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	—	○	○
陳情第5号	東京都新宿区において顕在化した事例を受けて、政党機関紙の庁舎内勧誘行為に関する早期の実態把握と再発防止を求める事に関する陳情	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	—	○	×	
陳情第7号	公立中学校における平和教育及び校外学習の政治的中立性と安全確保を求める陳情	不採択	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	×	×	

市政を問う！

代表質問

令和8年6月24日：4会派

次ページからは、質問項目中の特に市民の皆さまへお届けしたい内容を掲載しています。
全編については後日議会ホームページに掲載される会議録や、YouTube（チャンネル名・福井県坂井市議会）でご覧ください。YouTubeは議員写真下の二次元コードから視聴できます。なお、文章は各議員が作成しています。

代表質問ってなに？ 活動を共にする会派の代表者が会派の理念や政策を踏まえ、市政方針や提案された予算などについて質問することです。

【通告一覧】

議員氏名	通告内容	ページ	議員氏名	通告内容	ページ
【新政会】 古屋 信二 山田 秀樹	(1) 市民主役と持続可能な行財政運営について (2) 坂井市誕生20年と、住みよく、活気あるまちづくりについて (3) 「安全・安心と環境を守る」について (4) 誰もが生き生きと暮らせる地域共生社会について (5) 結婚・子育てについて (6) 稼げる産業と地域の活力を創出することについて (7) 坂井市ならではの教育の推進について (8) 副市長の市政運営における役割について (9) 三国病院の運営について	7	【翔政会】 廣瀬 陽子	(1) 市長2期目の市政運営と基本姿勢について (2) 財政状況と市民への説明責任について (3) 職員がやりがいをもって働ける市役所づくりについて (4) 地域の魅力向上と、ふるさとへの誇りと愛着の醸成について (5) スポーツ振興を通して、「元氣な坂井市」の実現を (6) 坂井市のこれからの交通インフラについて (7) 市長2期目の重点政策と4年間で示す成果について	8
【拓心会】 田中 哲治	(1) 池田市政2期目の抱負と副市長2人体制について (2) みんなで未来につなぐまちづくりについて (3) 互いに思いやり支え合うまちづくりについて (4) 学ぶ意欲を支えるまちづくりについて (5) 自然と共生できるまちづくりについて (6) 地域資源を生かし活力に満ちたまちづくりについて (7) 安全で快適な暮らしを支えるまちづくりについて	7	【日本共産党】 議員団 松本 朗	(1) 市民生活応援、物価高対策の追加支援、拡充を (2) 物価高騰に伴う市内事業者の支援を強化することを求める (3) 教育費の支援の全面的強化を (4) 東尋坊ビジターセンターの建設は、着工時期、規模を含め慎重な対応を (5) イータクの利便の拡充とドライバーの賃金問題 (6) ごみ袋追加発注 立ち止まって、再検討を	8

check!

産業建設常任委員会報告

主な質疑内容

産業政策部

Q 東尋坊ビジターセンターの建設工事について、経営事項審査※の点数を1,500点以上にした考えは。

A 岩盤を約6メートル掘削して建物を建てるといった技術面での保証や、観光客の横で工事をするといった安全面の確保を考慮した全体的なスケジュール管理など、いくつかの重要ポイントが中心の考え方である。

※経営事項審査
建設業者の経営規模や技術力などの客観的事項を数値化する審査。

Q 建設を予定している東尋坊ビジターセンターの規模と利用者数の見込みは。

A 設計は1日最大1万9,000人利用可能な施設として整備を進めており、利用者数は年間200万人を目標としている。

Q はぴコインを活用した坂井市生活応援商品券事業だが、利用できる店舗が少ないのではないか。

A 先に行っていたキャッシュレスキャンペーン事業も最初は400店舗ほどで回数を重ねるごとに対象店舗を増やした。

現状はぴコインの取り扱い店舗が増えない原因の特定はできていないが、周知を続け、最終的には1,100店舗ほどに増やしていきたい。

Q 鳥獣害被害について、具体的な打開策は考えているのか。

A 近年各所にカメラなどを設置し、センサーで感知をしてAIで分析して通知をするという施策もある。しかし、多くのカメラが必要となり費用もかかるため、今後検討しながら進めていく。

建設部

Q 春江駅周辺整備^{しんちやく}の進捗状況は。

A 令和7年度より国の交付金を活用し事業に着手している。現在、駅西口の用地については、一部の登記が完了し、残る県外在住の地権者や、駐車場用地についても引き続き交渉を進めている。また、現在、鉄道にかかる電気、通信のケーブルの調査を実施しており、周辺整備については設計を進めている。なお、鉄道施設はハピラインふくいが事業主体となっており、今後、跨線橋^{こせんきょう}などの設計に着手する予定と聞いている。

※跨線橋
鉄道の路線を跨ぐように架けられた橋。

Q ウォーターPPP※の補助金の条件を聞くと、国は下水道の民営化を勧めているのかのように感じるが、現場ではどのように感じているのか。

A 民営化まではいかず、あくまで委託である。責任の所在は市にありつつ、委託できる部分は民間に委託するという形になっている。

※ウォーターPPP
水道や下水道などの維持管理や更新を、自治体と民間企業が協力して行うこと。



▲ 周辺整備が進む春江駅

新 政 会

会長 古屋 信二
副会長 山田 秀樹





市長の2期目の決意を伺う



Q 市長2期目に臨むリーダーシップについて決意を伺う。

A 市民と対話を重ね、必要な判断は責任を持って行い、その覚悟を持って市民とともに坂井市の未来を築いていく。

Q 市民との対話、市民活動団体や地域コミュニティへの支援は。

A 高齢化や担い手不足といった課題がある中で活動が継続できるような、新たな担い手の育成、連携の促進に向けて検討を進め、積極的に取り組んでいく。

市立三国病院の運営体制は



Q 令和8年4月からの地方公営企業法「全部適用」への移行により三国病院の運営体制はどのように変化したのか。



▲ 運営体制が新しくなった三国病院

また、今後どの分野を重点的に強化していく考えなのか。

A 全部適用により、事業管理者への市の権限を委譲したこと意思決定が院内で完結する体制となり、従来に比べて迅速かつ柔軟な経営判断ができるようになった。

今後は、内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科および透視医療を中心に高齢者への医療提供体制の充実や、坂井市唯一の分娩機関の役割として、小児科および産科、婦人科の診療体制についても重点的に維持、強化していく。

翔政会

会長 廣瀬 陽子



市長2期目の市政運営とは



Q 市長が掲げる「市民と協働」は、どのような市政運営を指し、市民主役の市政をどう実現するのか。

A 「市民と協働」とは、課題認識や目標を共有し、共に考え、行動し、成果をつくる市政運営を指すものと考えている。

市民と情報や課題を共有し、市民活動の基盤づくりや、参加しやすい仕組みづくりに努めていく。

持続可能な行財政運営に向けて



Q 限られた財源と人員の中で、事業の優先順位の設定や見直し、デジタル化、業務改革をどのように進め、持続可能な行財政運営につなげていくのか。

A 事業の効果や役割を踏まえ、優先度に応じ資源を配分する。一方、事業整理を計画的に実施



▲ スポーツを気軽に楽しむ市内の子どもたち

スポーツ振興で「元氣な坂井市」の実現を



Q 本市の将来像で、スポーツ振興の役割をどう位置づけているか。

A 市民一人一人の健康づくりを支える重要な施策として位置づけており、まちづくりの基盤として、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりを進めている。

拓心会

会長 田中 哲治



池田市政2期目の抱負と副市長2人体制は



Q 2期目の公約7項目をどう進めるのか。

A スピード感を持って実行し、時間を要する施策は、進捗状況をホームページや広報紙などで市民に知らせる。

また、坂井市誕生20周年の節目の年で、この20年間の成果を土台とし、次の20年を見据えたまちづくりを進める。

Q 石田知事との間で、県と本市の連携について伺う。

A 県政発展に向けた思いや地域課題の認識が共有できていると感じており、今後、本市の課題や要望は県に伝え、必要な支援や協力を求め市政発展につなげていく。

Q 副市長2人体制の考えを伺う。



▲ 早期全面開通が望まれる坂井市内で建設中の道路

などを勘案し、適切な時期に適切な判断をしていく。

安心して快適な暮らしを支えるまちづくりを



Q 4地域拠点性の再定義を。

A 新たな交通軸を生かし、実効性の高いまちづくりの実現のため、立地適正化計画の見直しの検討を進めていく。

日本共産党議員団

団長 松本 朗



物価高騰対策の追加・拡充を



Q 市長は物価高騰の市民生活への影響をどう捉えているか。

A 食料品、光熱費の上昇が日々の暮らしに大きな影響を与えており、実情に即した支援策を講じていく必要があると認識している。

Q 水道基本料金無料期間の継続を求める。

A 実施中の支援の効果を検証し、国や県の経済対策、物価動向にも注視しながら、対応を検討する。

教育費の支援強化を



Q ハピラインふくいといえちぜん鉄道を利用する高校生の定期料金に3倍の差があり、支援が必要では。

A 進学先の選択は本人の自由意思である。公平性の観点から支援は慎重に考える必要がある。



▲ 利用が増えているイータク

イータクの利便の拡充とドライバーの賃金



Q イータクは市民に喜ばれている事業で、利用者が増えている。予約成立率はいくらか。

A 令和7年度は75・3%である。受託事業者が支払うドライバーへの賃金が低く、市の想定している人件費を下回っている可能性があるがどう受け止めるか。

A 賃金などの労働条件は事業者と従業員の契約で決定されるものであり、実際の賃金が市の設計額を下回することは問題がないと考える。

Q 人口減少、少子高齢化が進む中、祖父母力を地域の戦力と位置づけ、地域づくりに生かすことが重要であると考え、祖父母力を生かした地域づくりの方向性は、高齢者世代をはじめとする幅広い世代の知恵と経験を生かし、地域住民の主體的な参画による地域づくりを推進し、市民一体となって地域コミュニティの維持、活性化を図っていく。



▲ 祖父母力による子ども見守り活動が行われている地域の様子

Q 高齢者の経験や知恵、地域とのつながりなどを「祖父母力」と考えるが、市長は、この祖父母力どのように捉えているのか。

A 高齢者世代が長年培ってきた知識、経験、人とのつながり、地域への愛着を基盤としており、子育て支援、地域活動などを通じて、次世代や地域社会を支える大きな力であり、地域のつながりを深める重要な役割を担っていると考えている。

Q 若者政策と祖父母政策のバランスについて、若者支援に加え、祖父母世代を政策の柱として位置づけていく考えは。

A 若者政策は未来への投資であり、高齢者政策は地域を支えてきた人への安心の確保であり、若者が希望を持ち、高齢者が生きがいを持って、その両者をつなぐ地域づくりを進めていくことが、持続可能な坂井市を築いていくことにつながると考えている。



おかべ 岡部 恭典



市政のここが知りたい

一般質問

令和8年6月25日・26日の2日間：15人

このページからは、質問項目中の特に市民の皆さまへお届けしたい内容を掲載しています。
全編については後日議会ホームページに掲載される会議録や、YouTube（チャンネル名・福井県坂井市議会）でご覧ください。YouTubeは議員写真下の二次元コードから視聴できます。なお、文章は各議員が作成しています。

一般質問ってなに？ 定例会において、議員が市の実施している事業の状況や方針などについて、市から報告や説明を求めるために質問することです。

【通 告 一 覧】

議員氏名	通告内容	ページ
辻 人志	(1) 北陸電力福井火力発電所三国1号機の廃止について (2) 使われなくなった学校プールの利活用または解体とその跡地利用について (3) 九頭竜川以西の鳥獣害防止対策について	9
岡部 恭典	(1) 祖父母力を地域力へ＝高齢者が輝く坂井市のまちづくり	10
伊藤 宏実	(1) 部活動の移動について	10
上内 晴幸	(1) 高齢化に伴う地域団体の後継者不足について (2) 豊原寺跡周辺の山城遺構発見に伴う調査・保護について	11
高嶋 信博	(1) 丸岡城天守保存修理工事等について	11
三宅小百合	(1) 骨髄ドナー支援の充実について (2) 工業団地における下水道未整備区域の現状と今後の整備方針について	12
永井 純一	(1) 坂井市の物価高対策について (2) 行政改革について (3) 坂井市の学校教育について	12
大谷 正道	(1) 坂井市の危機管理体制（出水期対応及び国民保護施策）について	13

議員氏名	通告内容	ページ
後藤 寿和	(1) 本市ふるさと納税を次のフェーズに向けて	13
川畑 孝治	(1) 生活応援事業について	14
畑野麻美子	(1) 敬老会を単なる行事としてではなく、高齢者の孤立を防ぎ、地域のつながりを取り戻す大切な福祉施策として位置づけるべき (2) 坂井市丸岡町の豊原を市民にもっと知ってもらうため、イベントづくりを求める	14
佐藤 昌康	(1) 「教育現場における生成AIの利活用」について	15
高倉 友愛	(1) 働く世代の心の健康と相談支援について	15
林 豊夏	(1) 部活動地域展開における地域・保護者の理解と協力について (2) 農業者が安心して農業を営める坂井市に向けた持続可能な農業政策について	16
佐藤 岳之	(1) さかいキッズパークの運営状況と今後の取組について	16

Q 中学生の部活動やスポーツの、校外や遠方への移動の実態を伺う。

A 練習試合などでは保護者送迎が主だが、大会参加で令和7年度中に3団体が貸切バスを利用した。また、スポーツでも保護者送迎が主だが、令和7年度中に全49団体の中、貸切バスの利用が5団体、レンタカー利用が8団体であった。スポーツ庁からは安全確保に向けた通知が発せられているが、本市としての対応を伺う。

Q 令和7年5月の通知で、シートベルト着用の徹底や貸切バス利用時の適切な事業者との契約、事故発生時の連絡体制の事前共有、長距離遠征の必要性の検討、無理のない移動計画などが示された。これらの内容を各学校に周知するとともに、学校における危機管理マニュアルの点検、見直しを行う



▲ 地域移行が進む市内中学校の部活動

Q 移動については安全確保が第一だが、燃料費の高騰などもあり、保護者負担が大きくなっている。市として中学生の部活動やスポーツへの援助など、支援の状況を伺う。

A 学校部活動の充実を図るため、令和8年度は1400万円を計上しているが、国や県の動向も見据え、保護者負担の一層の軽減に向けた検討を行っていきたい。



いとう 伊藤 宏実



Q 使われなくなった学校プールの解体と跡地利用についてどのように考えているのか。

A 整備計画を立てて、老朽化したプールの解体を進めるとともに、各学校の意見や地域の実情を踏ま

使われなくなった学校プールの解体と跡地利用の検討を

Q 電力事業者の動向や方針を待つのではなく、電力事業者と緊密な協議を重ねて、本市の発展につながるビジョンを模索すべきでは。

A 当該地は港湾や幹線道路に隣接しており、本市の将来にとって大きな可能性があるエリアであると認識している。

Q 九頭竜川以西における鳥獣害防止対策の取り組みを伺う。

A 電気柵の設置に対する支援や、地域住民や農業者を対象とした研修会の実施、隣接する福井市との連携の強化を図っている。

北陸電力福井火力発電所三国1号機廃止後の跡地利用は



つじ 辻 人志



▲ 福井火力発電所

九頭竜川以西の鳥獣害対策強化を

えて、跡地を駐車場として整備するなど有効活用について検討していきたい。



かみ
うち
はる
ゆき

上内晴幸



地域団体の担い手確保へ
支援充実を



自治会やまちづくり協議会などの担い手不足への認識と支援策を伺う。

担い手不足は地域運営の持続性に関わる重要課題であると認識している。

集落カルテを活用し地域課題を共有するとともに、「自治会サポ―」などデジタル化による負担軽減を進める。

また、スマホよろず相談所などを活用し、高齢者のデジタル支援を充実させ、地域活動への参加の裾野を広げていく。

他地域の事例や外部の知見も共有し、地域自身が無理のない運営をできるように支援していきたい。

豊原寺周辺で発見された
山城遺構の保護を



発見された山城遺構の調査・保護をどう進めるのか。

重要な遺構と認識しているので、県と連携し埋蔵文化財包蔵地への追加手続きを進めるほか、関係機関と情報共有し、損壊防止に努める。

また、地域とも連携し、調査・保護を進め、歴史と文化の継承、魅力発信につなげていく。



▲ 豊原寺跡



たか
しま
のぶ
ひろ

高嶋信博



丸岡城天守保存修理工事の進捗状況、期間中の魅力発信および一筆啓上茶屋跡地の今後の方針は



今しか見るこのできない工事の現地説明会実施について伺う。

足場、素屋根の組み立てや、耐震補強工事に関わる1階床板の解体工事が順調に進めば、令和8年8月から城内観覧が再開できる。

現地説明会は、令和8年秋ごろをめどに工事工程に合わせた開催を検討している。

今後の天守公開スケジュールなどは、ホームページ、公式LINEなどのSNSで随時発信していく。

重要文化財である丸岡城天守の防犯・防災対策のため、立入禁止区域が必要ではないか。

防犯・防災対策は、非常に重要なことと認識している。

機械警備装置などの設置検討、天守周辺エリアの立入制限など、早急に対策を行っていきたい。

一筆啓上茶屋の跡地の今後の整備、利用方針は。

令和8年度には試掘調査を実施し、令和9年度以降本格的に発掘調査を行い、掘手口の状況把握を行う。

駐車場とバス停は、当面の間現状のまま使用するので、待合スペース、トイレの利用も含めて丸岡城観光情報センターを利用してもらうよう案内していく。



▲ 改修工事が進む素屋根に覆われた丸岡城



み
やけ
さ
ゆり

三宅小百合



骨髄ドナーに支援を



骨髄バンク事業およびドナー支援をどのように認識しているか。

毎年約1万5千人が新たに白血病や血液疾患を発症しており、骨髄バンクは命をつなぐ公益性の高い仕組みであり、提供に伴う負担を軽減する支援体制整備が必要であると認識している。

市で支援制度を創設する考えはないか。

県に対して強く要望していく。

工業団地における
下水道未整備区域の現状と、
今後の整備方針は



公共下水道が整備されていない工業団地はどこか。

市内には工業団地が13カ所あり、整備済が4カ所である。

一部整備済みを含め、末政工業団地、丸岡インターチェンジ、大味工業団地、福井県商工業団地、



▲ 骨髄提供までのプロセス(例)

大牧工業団地、丸岡玄女農工団地、丸岡舟寄農工団地、丸岡内田耕田工業団地および坂井中部農工団地が未整備である。

今後整備の可能性はあるか。

公共下水道は生活・産業の基盤である一方、多額の費用を要するため、経営戦略に基づき計画的に進めている。

現時点では工業団地の整備要望はないが、今後の企業動向を踏まえ必要区域の整備を検討する。

物価高から市民を守る対策を



厳しい状況の低所得者や、子育て世帯への速やかな物価高対策が必要ではないか。

本市では、国の物価高騰対応の臨時交付金を活用し、全市民の生活支援に取り組んでいる。

内容は、はぴコインを活用した坂井市生活応援商品券事業や、水道料金の減免などを実施して市民生活の負担軽減につなげている。

今後も、国の動向を注視し、関係機関と連携して、迅速かつ的確に対応する。

事業者の事業継続や倒産防止対策などの対応として、相談体制の確立、資金繰り支援など、市独自の取り組みが必要ではないか。

資金繰りは、県と連携して、中小企業者等振興資金による融資制度をはじめ、保証料補給、利子補給などを実施している。



なが
い
じゅん
いち

永井純一



相談については、商工会、金融機関で資金繰りや経営に関する相談に応じている。

現在実施している4カ月間の水道料金減免の延長はできないか。

水道については、多くの財政需要が見込まれている。

将来負担、公共施設の更新費用などの財政負担がある。

今後の物価動向、国や県の施策、本市の財政状況を勘案して、市民や事業者に対する物価高対策の支援を検討したいと考えている。



▲ 生活応援商品券 チラシ



おおたに まさみち
大谷 正道



出水期の防災対策と
防災情報の周知徹底を



Q 出水期を迎え、本市の水害発生
予測と具体的な対策を伺う。

A 近年の気候変動に伴う降雨の激
甚化などを踏まえ、想定最大規模
の降雨を前提とした危険度の把握
に努める。

Q 新たに設けられた防災気象情報
の活用や普及周知の施策を伺う。

A 広報紙やアプリ、出前講座など
を活用して市民の理解促進を図
り、防災行政無線やメールなどに
連携させて運用していく。

国民保護計画の周知と
国民保護施策の取り組みを



Q Jアラート発令時における要配



▲平成16年7月福井豪雨の様子

慮者や教育・保育施設における安
全確保の方策について伺う。

A 要配慮者は個別避難計画の作成
とその活用を図り、小中学校や保
育施設では、マニュアルの徹底や
避難訓練の実施に努めている。

Q 本市の国民保護訓練に対する今
後の方針について伺う。

A 昨今の安全保障環境から国民保
護訓練の重要性は高まりつつある
ため、今後、県や関係機関と連携
して検討調整を進める。



かわばた たかはる
川畑 孝治



生活応援事業は



Q 国の物価高騰対策として全国の
自治体において独自の生活応援事
業が行われているが、本市はなぜ
はびコインでの事業としたのか。

A 利用対象を市民および市内事業
者に限定可能で、他市町でもはび
コインの活用が広がっている。

Q はびコインのデジタル決済可能
店舗数は405店舗、紙商品券決
済可能店舗数は196店舗に比べ
PayPay決済可能店舗数は1
196店舗であり、事業目的であ
る地域経済の活性化を図るには使
える店舗が多い方がよいのでは。

A 今後ははびコインの登録店舗が増
えることも期待されており、水道
料金の減免や中学校の給食費無償
化なども行っている。



▲65歳以上に配られた坂井市生活応援商品券

Q 今回の事業は、市民一人につき
5千円分の生活応援事業だが、市
民感覚としては不足感がある。
ほかの市町では、1万円から2
万円分での事業を行っているこ
ろもある中、なぜ今回の金額規模
になったのか。

A 本事業は、物価高騰対応重点支
援地方創生交付金を活用してお
り、商工会などが実施するキャン
ペーンなどの支援を組み合わせる
ことで、市民生活の負担軽減と
地域経済の活性化の両立を図っ
ている。



ごとう しろう
後藤 寿和



ふるさと納税を
次のフェーズに向けて



Q 本市の令和7年度ふるさと納税
額は前年度比13・3%減だが、こ
の結果をどのように分析するか。

A コメを返礼品とした寄附申し込
みは令和6年度を上回り、想定以
上の申し込みで供給が追いつか
ず、品切れのため受け入れを断る
状況が生じた結果、コメの需要が
他市町へ流れたと分析している。

Q 寄附市民参画制度の提案を増や
すために、周知や制度改善をどう
考えているのか。

A 1件あたりの事業費規模が大き
くなる傾向にあり、小規模な事業
や市民の身近な案件が提案し難い
状況にあるものと認識している。

今後は、制度の趣旨や仕組みを
より分かりやすく伝えることを継
続し、市民の身近な要望や新たな
チャレンジも応援できるよう、小
規模であっても気軽に提案できる



▲ふるさと納税の返礼品事業者の紹介や、
使い道の報告をする「使途報告書」

制度を目指し、運用の在り方も含
めて検討していく。

Q 市民の夢と事業者の夢を応援す
る制度をさらに連携発展させ、市
民活動の活性化、地域産業の創出、
関係人口の拡大で、ふるさと納税
を活性化させ、次のフェーズに移
る時期と考えるが見解は。

A これまで蓄積した成果や課題を
整理し、見直しを図り、市民活動
の活性化と地域産業の創出、関係
人口の拡大につなげ、一層の活性
化と制度の発展を目指す。



はたの まみこ
畑野 麻美子



敬老会を単なる行事ではなく、
大切な福祉施策として
位置づけるべき



Q 敬老会の規模に地域差がある。
まちづくり協議会などに任せる
だけでなく、高齢者が敬意を持っ
て祝福され、地域のつながりを取
り戻す福祉施策としても位置づ
け、市としての一定の方針や支援
の在り方を示すべきではないか。

A 地域差については、地域の自主
性や創意工夫がある一方で、高齢
者の交流の面で差がある。
記念品の配布だけでなく交流で
きる敬老会を望む声もある。
地域における担い手や運営負担
の課題にも配慮しながら、高齢者
の孤立防止や地域のつながりとし
ての敬老会の実施が図れるよう支
援していく。

歴史的価値のある豊原を
市民に知ってもらうため、
イベントなどの取り組みを求める



Q 豊原の魅力を再発見するイベン



▲敬老会の様子

A トや情報発信に取り組むことは
できないか。
郷土愛を育み、若い世代に継
承していくためにイベントの開
催は大変有意義であり、学芸員
が同行し、歴史的な部分につい
て解説すれば意味のあるイベン
トになると考える。
今後はさまざまな団体と協力
関係を築いていきたい。



佐藤 孝文

昌康



学校現場における
生成AIの利活用は



生成AI活用の現状と認識は。

パイロット校※で検証を進め、業務効率化や教育の質向上を図る。

生成AIを活用する力は、変化の激しい社会を生きる子どもたちにとって重要な情報活用能力の一つと位置づけている。

主体性低下やモラルの不安は。

思考の依存や誤情報などのリスクを認識している。

安全・効果的に利用できるよう教職員向けチェックリストを作成し、特性を正しく理解して使いこなす力を育む指導の徹底を図る。

教職員の負担軽減への活用は。

教材作成などの試行で業務を効率化し、子どもと向き合う時間を確保していく。

教職員も適切に生成AIを使えるように、全教職員対象の研修を継続していく。

不登校支援や教科への活用は。

デジタルドリルなどで各自の居場所での学びを支援している。

今後は英語の疑似会話や探究学習の相手など、教科特性を踏まえた有効な活用の在り方を検証し、教育効果の高い実践に努める。

今後の方向性とハード整備は。

実証結果の全校展開や研修充実を図り、通信量の増強や通信機器の更新、体育館を含めた校内環境の改善を行い、快適な環境と教育の質の向上に取り組んでいく。



▲体育のハードルの授業で「AIスマートコーチ」を使用し、自分の動きをチェックする様子

※パイロット校：新しい教育手法などを試験的に行う、文部科学省から指定された学校。



高倉 友愛

友愛



働く世代の心の健康と
相談体制の充実を



働く世代の心の健康について、市はどのような現状と課題を把握しているのか。

市の調査では約8割がストレスを感じており、主な要因は仕事と人間関係である。

相談先がない人も13.7%おり、公的相談窓口につなぐ体制強化が課題である。

相談しやすい環境づくりをどのように進めるのか。

ここサポを中心とした相談支援に加え、市内21薬局と連携した「まちの健康情報ステーション」を進め、関係機関との連携も広げながら、相談体制の充実と周知を図る。

市職員の心の健康を守るため、市役所内でのような取り組みを行っているのか。

ストレスチェックや産業医面談、メンター制度、ハラスメント



▲福祉の相談窓口「ここサポ」

市役所内での取り組みを市内企業へ広げる考えはあるのか。

企業の主体的な取り組みが重要であり、市として直接指導は難しいが、関係機関と連携し就労継続や再就職支援も含め、働く世代を支える相談支援の充実にも努める。



林 豊夏

夏



子どもの活動機会を守る
部活動地域展開を



部活動の地域展開で、市はどのような課題を認識しているのか。

指導者の確保や活動場所の調整、会費による保護者負担、将来的な活動拠点までの移動などを課題としている。

また、地域クラブの会員管理や会費徴収など運営面の負担については、坂井サポートクラブなどによる支援体制の強化を進めていく。

保護者や地域住民と連携し、子どもたちの活動を支える環境をどのように整えていくのか。

市ホームページや広報紙、保護者説明会などで地域展開への理解を深める。

また、保護者アンケートや地域クラブとの意見交換により、送迎や費用負担などの課題を把握し、改善につなげていく。

地域住民には指導だけでなく、



▲地域展開された部活動の様子

運営や見守りなど幅広い役割を期待している。

地域クラブを持続可能にするため、運営負担の軽減や好事例の共有を進めてはどうか。

アプリを活用した会員管理や連絡調整など、既に取り組む団体の事例を他の団体へ共有していく。今後も地域クラブの実態を把握し、必要に応じて協議の場を設けながら、地域全体で子どもたちを支える環境づくりを進めていく。



佐藤 孝文

岳之



さかいキッズパークの
運営状況と今後の取り組みは



さかいキッズパークオープン以降の来場者数について、平日と休日、長期休暇中など、どのような傾向になっているのか。

令和8年3月20日のオープンから5月末までの利用実績は、延べ2万7413人となっており、多くの人が来場しており、平日は約9600人、休日などは約1万7800人と、休日などが平日の倍程度の利用者となっている。

オープン直後の春休み期間中は平日でも定員の200人を超える来館があり、混雑した。

そのため、利用者が多くなると見込まれる長期休暇中では、平日においても休日同様に事前予約式の入れ替え制にして運営をすることとしている。

さかいキッズパークは、子どもが遊ぶだけでなく、保護者同士の交流やイベントの充実も求められ



▲さかいキッズパークの遊具

ていると考えるが、施設の今後の方向性を伺う。

子どもや保護者の新たな居場所づくりに寄与する意味でも、利用者が飽きることなく何度でも利用することを目指していく。

各種イベントに加え、市が行う子育て支援事業との連携も視野に入れながら、単なる遊び場を提供するのではなくさまざまな子育て支援を行う場としても利用促進を今後も図っていく。



議会連絡掲示板

議会と意見交換しませんか？

議会との意見交換会を希望する団体を募集しています。

坂井市議会ではより身近な議会を

目指し、様々な団体との意見交換会を実施しています。募集内容を坂井市議会ホームページに掲載しています。詳細は右の二次元コードからご覧ください。



こちらから
ホームページに
とびます！

議会を傍聴してみませんか？

事前予約は不要ですので、
お気軽にお越しください。



定例会
会期日程は
こちら

★ 9月定例会会期日程(予定)

日	月	火	水	木	金	土
8/23	24	25	26	27	28 10:00～ 本会議初日 (行政報告、議案説明など)	29
30	31	9/1	2	3	4	5
6	7 10:00～ 一般質問	8 10:00～ 一般質問	9 10:00～ 一般質問	10	11 10:00～ 産業建設常任委員会	12
13	14 10:00～ 教育民生常任委員会	15 10:00～ 総務生活環境常任委員会	16	17	18	19
20	21	22	23	24 10:00～ 本会議 (委員長報告・採決など)	25 9:00～ 決算特別委員会	26
27	28 9:00～ 決算特別委員会	29 9:00～ 決算特別委員会	30 9:00～ 決算特別委員会 (予備日)	10/1	2	3
4	5	6 9:00～ 決算特別委員会	7	8	9 9:00～ 決算特別委員会	10
11	12	13 13:30～ 決算特別委員会 (採決など)	14	15	16	17
18	19 10:00～ 本会議最終日 (委員長報告・採決など)	20	21	22	23	24

※ 日程は、変更になる場合がありますので、変更となった場合は、坂井市議会ホームページでお知らせします。

編集後記

少しずつ日が短くなりをはじめ、秋の訪れを意識しますが、まだまだ厳しい残暑は続き、年ごとに夏が間延びしてきているのではないかと感じます。

私共議員は4月の選挙を経て新しい議会となり今回が、改選後初の発行となります。

広報編集委員のメンバーも再編成され、フレッシュな新体制となりましたが、これからも「わかりやすい、読みやすい」のコンセプトを胸に、皆さまに議会の内容をお伝えできるよう取り組んでいきます。

市制施行20年を迎えた坂井市ですが、人口減少など課題は多くあります。次の20年をよりよいものとするべく、議員一同粉骨砕身の思いで努めてまいります。

よろしくお願いたします。
(広報編集委員長 上坂 健司)

令和7年度 政務活動費の会派収支について報告します

政務活動費は、議員の調査研究その他の活動に資するため、必要な費用の一部として、議会における会派に対し交付されます。



▲議会ホームページ
(政務活動費について)

- ・各月1日時点の会派の所属議員数に月額50,000円をかけた金額が交付されます。
- ・収支内容は毎年度議長に報告し、残額がある場合は市に返還することになっています。
- ・議会ホームページにて各会派の収支報告書を公開しています。

《令和7年度》

(単位:円)

科目	会派名	創政会 (R8.1.5解散)	志政会 (R8.1.5解散)	政友会	日本共産党 議員団	公明党	一進会 (R7.5.1解散)	チャレンジ さかい	政新 さかい	誠政会 (R8.1.5結成)	坂井 未来の会 (R8.1.5結成)	志政会 (R8.1.6結成)	市民クラブ さかい (R8.1.6結成)	合 計
収入	政務活動費	5,950,000	1,500,000	1,100,000	1,200,000	600,000	50,000	600,000	600,000	1,100,000	300,000	100,000	100,000	13,200,000
	預金利子	2,832	367	373	482	613	101	370	366	21	6	2	0	5,533
	合 計	5,952,832	1,500,367	1,100,373	1,200,482	600,613	50,101	600,370	600,366	1,100,021	300,006	100,002	100,000	13,205,533
支出	調査研究費	2,268,811	662,781	303,568	0	110,775	0	78,769	239,489	0	0	0	0	3,664,193
	研修費	543,862	429,070	24,880	24,880	12,440	12,440	166,828	12,440	0	0	0	0	1,226,840
	広報費	0	0	0	1,129,186	0	0	0	0	0	0	0	0	1,129,186
	広聴費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要望・陳情 活動費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資料作成費	795,021	265,029	15,082	16,614	0	0	92,458	0	230,046	116,235	0	0	1,530,485
	資料購入費	55,110	75,010	0	21,400	0	0	1,980	0	12,100	0	0	0	165,600
	人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務所費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務費	39,600	9,900	7,260	7,920	3,960	0	3,960	3,960	7,260	1,980	660	660	87,120
	その他の経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	3,702,404	1,441,790	350,790	1,200,000	127,175	12,440	343,995	255,889	249,406	118,215	660	660	7,803,424
	残額(返還額)	2,250,428	58,577	749,583	482	473,438	37,661	256,375	344,477	850,615	181,791	99,342	99,340	5,402,109

政務活動費の主な使途事項

■調査研究費

会派が行う市の事務、地方行財政等に関する調査研究（視察を含む）及び調査委託に要する経費

■研修費

- ①会派が研修会、講演会等を開催（共同開催を含む）するために要する経費
- ②団体等が開催する研修会（視察を含む）、講演会等への参加に要する経費

■広報費

会派が行う活動、市政について住民に報告するために要する経費

■広聴費

会派が行う住民からの市政及び会派の活動に対する要望、意見の聴取、住民相談等の活動に要する経費

■要望・陳情活動費

会派が要望、陳情活動を行うために必要な経費

■資料作成費

会派が行う活動に必要な資料の作成に要する経費

■資料購入費

会派が行う活動に必要な図書、資料等の購入に要する経費

■人件費

会派が行う活動を補助する職員を雇用する経費

■事務費

会派が行う活動に係る事務の遂行に要する経費

議会報告会を開催しました



頂いたご意見は市長に報告しました



高棕コミュニティセンターの様子 ▲

○日時:5月25日(月)19時～
会場:三国コミュニティセンター
東十郷コミュニティセンター

○日時:5月26日(火)19時～
会場:高棕コミュニティセンター
春江中コミュニティセンター

4会場で計18名の市民の皆さまが参加され活発な意見交換が行われました。ありがとうございました。



主な意見など

- 議会について、質問にかかっている時間が長く感じる。もう少し簡潔に話をできないのか。また、声をはっきりと出してほしい。切り抜き動画を作成してはどうか。
- みくに未来ホールをもっと活用して音楽コンサートなどのイベントを開催してほしい。
- 地区で実施している田んぼアートをもっと盛り上げて市の名物となるようさらに展開していつてほしい。
- 道路標識の劣化など、道路の維持管理が不十分ではないか。
- 全国的に発生している道路の陥没は他人事ではない。坂井市でも同様の事故が起こらないようしっかりと予算をとって対策をしていつてほしい。
- まちづくり協議会の活動に限界が近づいてきている。市民が地元に関心をもっと持てるような機運の醸成を行政としても協力してもらいたい。
- 丸岡城周辺整備を行っているがとても使いづらいと感じている。特にトイレについて、かわやが取り壊され不便を感じる。また、マチヨリマーケットについて、近代的な建物の見た目が古城の雰囲気には合っていないのではないか。今後の整備については利用者や景観も考慮してほしい。
- イータクの乗り場が家から遠い。利用者に配慮してもっと乗り場を増やしてほしい。

議会報告会を終えて

この度の議会報告会へのご参加、心よりお礼を申し上げます。

市民の皆さまにとって身近で信頼される議会を目指すべく各地区で報告会を開催しておりますが、今回も活発な意見交換が行われ、改めて皆さまの市政に対する関心の高さを感じることができました。今後とも議会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

(議会報告委員長 山田 秀樹)

皆さまのご意見などは…

議会報告委員会において整理し、回答が必要な場合は、関係課に確認の上、回答をしています。

また、頂きましたご意見を取りまとめ、市長に報告し、本会議や委員会などの質問を通して、皆さまの声を市政に届けています。



この印刷物は、環境にやさしい植物油インキを使用しています。

